

B-ism

NO.4

佛教大学

佛教大学広報誌
mokuji

- 2 巻頭特集 Special CROSS TALK
- 6 「B-L.L研究報告」
- 8 hot-TOPICS. 大学の動向
- 12 輝き Close Up
- 15 Favorite 「先生のお気に入り！」
- 16 学生編集室の窓
- 18 「密着！ 植村ゼミ」
- 20 Listen UP—OB・OG訪問
- 21 B-Information

B-ism
NO.4

発行日
2012年(平成24年)6月12日

発行者
山極 伸之

編集者
広報委員会

編集・発行
佛教大学広報課
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL 075-491-2141(代表)
www.bukkyo-u.ac.jp/
www.bukkyo-u.ac.jp/mobile/

撮影場所 広沢池

先人の教えを今に伝え、活かしていく

浜岡 大丸京都店さんの開店当時はどんな様子だったのでしょうか。

井村 大丸の発祥の地は京都の伏見です。1912年に今の四条高倉に店舗が完成しました。当時としては珍しいインドセラン式の白亜の建物で、インドのタージ・マハルのような佇まい。屋上にローラースケート場や大丸少年音楽隊が演奏する音楽堂などもあり、当時のお客様に驚きと感動を与えていたようです。先人のアイデアには敬服しますね。

浜岡 佛教大学は、1912年に高等学院を設置してから百年。翌年に佛教専門学校と改名して、僧侶や仏教研究者の育成に注力し、後年になって仏教の精神、とりわけ法然上人の教え、浄土宗をベースに、一般にも開かれた教育活動を行うようになりました。紫野のキャンパスを基点

として、教育の現場もまた、京都市内を中心に拡充しています。

井村 最近では二条にもキャンパスを創設されましたね。

浜岡 2011年に、二条キャンパスを開設しました。また、今年から保健医療技術学部に新たに看護学科を立ち上げ、看護師養成にも取り組んでいます。それ以前には1984年に、大丸京都店さんの隣に四条センターを開設しています。

井村 そうでした。これはどのような施設なんですか？

浜岡 「心のデパート」をコンセプトに、地域の方々向けに生涯学習講座や、各種セミナーを開催し、佛教大学の教育や研究成果を開放しています。心理クリニックも設置しているんですよ。法然上人が修業先の比叡山を下し、庶民の懐に飛び込んで教えを説かれた故事に通じる取り組みだと思えます。

井村 我々も「先義後利と

本年10月に、開学百周年を迎える佛教大学。同月には、京都市民の暮らしを長く支え続ける、大丸京都店も同じく百周年を迎える。今回は、その大丸京都店の井村有雄店長をお迎えして、こちらも百年余の歴史を誇る祇園の迎賓館「長楽館」で、本学の浜岡政好副学長と対談していただいた。京都、百貨店、大学、歴史、そして未来—。様々な角度から語られるそれぞれの「百年の物語」をひも解く。

「先人からの教えを社是として、継承しています。道義を優先させ、利益を後回しにする」という意味ですが、「会社のために」ではなく、「お客様のために」を第一に考え、行動することを全社員に浸透させています。

井村 そう呼んでいたというのでは、京都店だけのようです。都に根付き、京都の方に長く支えられてきたことを実感しますね。京都のお客様は、昔から本物を見る目というか、商品の質の善し悪しを鋭く見抜かれますね。また、進取の気質、つまり新しいモノへの関心度が高く、サイクルも速い。我々はその氣質に常に新しい商品やイベ

井村 そうですね。我々小売業はよく、「変化対応型産業」と言われますが、お客様の価値観の変化に応じて、陳列商品を変えるのは当たり前。消費が冷え込んでいる現代は、ただ目新しい商品を並べるだけではダメで、プラスチックがなければ買っていただけじゃない。例えば、紳士服を

という先人からの教えを社是として、継承しています。道義を優先させ、利益を後回しにする」という意味ですが、「会社のために」ではなく、「お客様のために」を第一に考え、行動することを全社員に浸透させています。

浜岡 それは百年目の大丸さんはもちろん、京都という町が千年以上続いてきたことと無関係ではないでしょう。企業や町が長期にわたって社会的な地位を維持するためには、時代の風潮や生きる人に合わせて絶えず変わっていく必要があると思います。理念や社是など、根本的な考えを変えないことが大切なように、変わっていくことも同じように重要。大丸さんのように、時代の変遷を最先端で感じられる業種であれば、一層敏感になるでしょう。

『変わらない』を守り、『変わる』を続ける。

京都で百年。

巻頭特集 | スペシャル対談
Special CROSS TALK

株式会社 大丸松坂屋百貨店
大丸京都店長

井村 有雄
IMURA Ario

佛教大学
副学長 研究推進機構長 社会学部教授

浜岡 政好
HAMAOKA Masayoshi



浜岡 政好(はまおか・まさよし)
1942年生まれ。中央大学法学部を卒業後、同大学文学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学。1973年佛教大学助手、1985年より同大学社会学部教授。佛教大学社会学部長・社会学研究科長を経て、2009年4月1日より佛教大学副学長。専門は、社会学、社会政策。



井村 有雄(いむら・ありお)
1957年生まれ。1979年慶応義塾大学経済学部卒業後、株式会社大丸に入社。1987年に大丸京都店勤務になり、2000年には営業企画部長に就任。その後大丸グループ本社経営計画本部勤務などを経て、2010年に下関大丸の代表取締役社長に就任。2012年1月に大丸松坂屋百貨店大丸京都店長、2012年5月24日付けで大丸松坂屋百貨店執行役員大丸京都店長に就任。



次の百年の課題、「生老病死」と「新しい大丸」

お客様に評価していただけるよう、商品提供という外側だけでなく、内側の改革を進めています。

浜岡 百年を迎えられるにあたって、キャンペーンやイベントをお考えでしょうか。
井村 「感謝の1000年祭」と銘打って、今春から来年の2月まで様々な「おトク」や「イベント」、サービスを展開していく予定です。第一弾としては、百年前に来店

主婦の方が買われるケースが増えています。ご自分の服のついでにご主人様の服も買われるんですね。そんなお客様が多くなる中で、従来のように婦人服、紳士服のフロアを分けたままでいいのか。ワンフロアで全てご覧いただけるようにした方がいいのではないかと。そういう発想が重要です。また、高齢化の進展と共に、店に来たくても来られない状況の方が増えているかもしれない。そんな方のために、欲しい商品を伺い、ご自宅までお届けするようなサービスも考えて

いかなければならないでしょう。

浜岡 昔で言う「御用聞き」の復活ですね。素晴らしいお考えだと思います。シニア世代への学びの提供という点では、本学では通信教育や四条センターでフォローしていますが、まだまだ十分ではない。もっと充実させていきたいと考えています。一方で、ただ時代に合わせるだけではなく、さらに一歩先の生き方を発信できないか、大学から新しい社会のあり方を提案できないかとも思案しています。



外側だけではなく、内側の改革が重要になってくる

種の神器を揃えているだけで良い」と言

井村 新しいサービスを実行するためには、まず組織的な改革が必要です。従業員の中には、「今までと変わることで、仕事がやりづらくなるのでは」と、躊躇を見せる人間も当然あります。私は、従業員が気持ちよく働ける環境があつてこそ、お客様が気持ちよくお買い物をしていただけると思っています。しかし、お客様が従来のやり方を「違う」と感じているのに、いつまでも店や従業員を優先していたのでは、社是にも反し、本末転倒です。

浜岡 我々も今まさに、組織改革を推進しています。昔は大学と言えば供給型で、学生に「ついて来い」という雰囲気だったんですが、少子化の影響もあつて、学生への対応にも変化が求められています。

井村 もはや百貨店が「三



のは、地域やお客様のおかげ。感謝の気持ちを伝えたいという想いは同じですね。ただ、我々は次の百年についても考え、乗り越えていかなければいけません。

浜岡 そうですね。佛教大学としては、「生老病死」に向き合って生きるという仏教の姿勢に基づいた人材の育成を推進していきたいと思っています。「生老病死」とは、人間がこの世で避けることのできない4つの苦悩、つまり生まれること、老いること、病気をすること、死ぬこと。これら人々が直面する困難な状況に、寄り添える人材を育てたい。看護師育成もその一環です。確かなスキルを持つ、社会と人々に貢献できる人材の育成をめざしていきます。

井村 素晴らしいですね。我々小売業、百貨店業は今、

われた時代ではないのと同様ですね。

浜岡 おっしゃるとおりです。ですから、学生にとってより学びやすい環境整備の観点から、校舎の増築、建て替えを進めるとともに、今年から従来の学生支援のあり方をガラッと変えたんです。縦割りの存在していた学生部や教学部といったサポート機関を、新しく発足させた機構の中に組み込み、入学から卒業まで一貫して学生をバックアップしていける仕組みにしました。まだ始まったばかりですが、必ず成果を上げられると思っています。

井村 組織全体、大本を変えるところは、大変に骨の折れる仕事ですが、我々も今、全社的に様々な取り組みを行っているところ。「なるほど、大丸は変わった」と

大転換期を迎えています。百貨店は2008年のリーマンショック以降、劇的に売上を落としました。お客様の足が遠のいたわけですが、しかし、お客様がいなくなったわけではない。どこかで必ず消費は発生している。どうやってこれを取り戻すか、そのために我々はどう変わるか。お客様に再び受け入れてもらえる新しい大丸の構築、それが次の百年の大きな課題です。

浜岡 なるほど。共に京都の地で、これからも頑張ってください。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

「笑顔の向こうに健康と幸せがあると信じて」 作業療法の側面から人間の幸福を追求する

作業療法学科 講師 **白井はる奈**



より有効な作業療法とは何かを探求する中で、白井はる奈先生は、一つのキーワードを見出した。それは、作業療法において「当たり前」の行為であるがゆえ、また方法論がなかったために、科学的な解析は成されていないものだった。白井先生のユニークなアプローチと、その成果に迫る。



左【原本】
Wellbeing in Dementia :
An Occupational Approach for Therapists and Carers
Tessa Perrin, Hazel May 著
右【訳本】
認知症へのアプローチ
ウェルビーイングを高める作業療法的視点
白井壮一、白井はる奈、白井佐知子訳

人間にとって一番の「薬」は？

作業療法とは、心身に障がいを抱えた人などが、「作業」活動を通して再び元気に生活できるようにするためのリハビリテーション方法の一つ。対象者のニーズを把握し、生活をサポートする作業療法士は、国家資格になる。手術や薬で病気を治療

するのは医師ですが、「生活」に焦点を当て、患者さんが望む、その人らしい生活を送れるように援助するのは作業療法士の役目」と語る白井先生は、作業が人に及ぼす影響を研究し、より良い療法を追い求めている。

白井先生の研究の転機は、「第二の学生時代」。作業療法士として約3年勤めた病院を退職し、再度勉強すべく編

入學した広島大学在学中のことだった。「姉妹校のカナダのカルガリー大学留学中に、難病の方のデイケアで実習させて頂いたんですが、とにかく皆さん病気を感ぜないほどイキイキとされているのに驚いたんです」。なぜこんなに元気なんだろう？ スタッフはどういうことを心がけて接しているんだろう？ 白井先生はスー

パーバイザーに尋ねた。すると彼女はさりと答えた。「Good laughter is the best medicine. (良い笑いが一番の薬になるんだ)」。参加者の笑顔、そしてそれを引き出しているスタッフの笑顔。たくさんさんの笑顔が循環する活気あふれる光景は、スーパーバイザーの言葉にこれ以上ない説得力を与えていた。「作業療法士にとって笑顔での

働きかけは当然の行為でも、突きつめて考えたことはなかった。白井先生は、大きな研究テーマを得て帰国した。

他者の存在と関わり方が重要

笑いや笑顔が人の心身に好影響をおよぼすことは、様々な先行研究で明らかになっている。では、人はいつ、どのような場面で笑うのか。笑顔は何によって引き出されるのか。「笑いや笑顔といった『肯定的感情』を誘発する要因が科学的に解明されれば、それらを表出させるための介入の糸口が見つかるのではないか。そうならば、例えば無表情になりがちで、言葉で自分の感情を表現しづらい認知症患者の笑顔をも引き出す方法の確立や、快適な環境作りにつながるかもしれない。白井先生の調査が始まった。

まず、老人保健施設に入所する重度の認知症高齢者の笑いや笑顔がどのような場

面で現れるかをフィールドワークを行い調べた。「普段は無表情で知られる認知症の方でも何かのきっかけで笑顔を見せることがあります。そこで日中の行動、表情などを観察し、笑顔が現れるのはどんな時かを調べました。するとその際には、必ず他者の存在があったんです。職員がにっこり挨拶したり、ユーモアのある一言をかけた時、笑顔であたたかな言葉がけをしたときに笑顔を見せている。他者の存在とその関わり方によって、人の感情は左右される」。白井先生は調査結果を修士論文にまとめるとともに、人の笑顔を引き出すコミュニケーションの取り方の重要性を実感した。

「笑顔を数字で測る」というアプローチ

そして昨年、白井先生は、他者との関わり方が人の感情に与える影響についてのより深い調査に取り組んだ。それは笑顔の度合いを数値化する

る」という画期的なアプローチ方法を用いて行われた。調査したのは、認知症高齢者と一緒に体操とボール投げを行った際に、白井先生が「無表情」で接した場合と「笑顔」で接した場合の対象者の表情の変化。後者が、対象者の笑顔を引き出せるとすれば、他者の笑顔の実効性が一層肯定されることになる。「かける言葉は同じにして、私の表情のみに変化をつけました」。

白井先生は対象者の笑顔を主観ではなく、より科学的に見定めるために、「スマイルスキャン」を導入した。オムロン社製のこの機器は、表情によって変化する目や口の形、顔のしわなどの情報を測定し、笑顔の度合いを数値で出力するというもの。つまり「笑顔を測る機器」というわけだ。白井先生は十数人と作業を行い、データを集めていった。結果、「私が笑顔で接したときに、ほぼ全員の方に笑顔が現れ、笑顔の度合いも無表

情で接したときより遥かに高かった。笑顔が必ずしも快適、幸福な感情を表しているとは言い切れないため、さらに吟味が必要だが「他者の笑顔による効果を、数値にして実証できた」ことは大きな進捗だった。

現在は実際の作業の効果についても調査している白井先生。今年3月にはフラワーアレンジメントが中高年者のストレスを軽減し、自尊心を高めることを報告した。しかし、白井先生はこう語る。「作業療法士にとって、作業に関する知識や技術はもちろん重要。でも、その作業をどう行うか、どうすれば気持ちよく行ってもらえるかを考えることは、もっと大切。知識や技術を学ぶ間に『あなたかさ』を忘れてしまっていないか。白井先生は、人の健康や幸せの追求とともに、作業療法士のあるべき姿を、「笑顔の研究」からより明確にしようとしている。



白井はる奈(しらい はるな)
大阪府生まれ。京都大学医療技術短期大学部・作業療法学科卒業後、大阪府済生会中津病院で作業療法士として勤務。退職後、広島大学医学部保健学科に編入学。京都大学大学院医学研究科での助教職等を経て2010年より現職。保健学博士。訳書に「認知症へのアプローチ ウェルビーイングを高める作業療法的視点」。





100周年記念事業推進事務局からの報告

開学100周年関連事業の展開

2012年に開学100周年を迎える佛教大学では『感謝～ありがとう～』をコンセプトにさまざまな記念イベントを開催してきました。多くの皆さまに支えられ迎えてきた100年の歩みをしっかりと振り返り、新たな100年に向かって、これからも皆さまとともに歩んでいきたい。この節目の年を今後も引き続き多彩なイベントで盛り上げていきます。

ありがとうプロジェクト

2012年の開学100周年を迎えるにあたり、『感謝～ありがとう～』をコンセプトとして、今まで言えなかった感謝の気持ちを伝え、「ありがとう」を世の中に広めることを目的とした「ありがとうプロジェクト」事業を推進してまいりました。プロジェクト1年目は、在籍時に言えなかった先生方への感謝の気持ちを伝える「先生ありがとうプロジェクト」を開催し、全国から寄せられた約7,000通のメッセージから、リーフレットを制作し、近畿一円の教育機関にお届けいたしました。なお、100周年記念サイトの「ありがとうプロジェクト」サイトの中で引き続き、先生への気持ちをまとめておりますのでご参加ください。

プロジェクト2年目は、ありがとうで「福祉・医療を元気にする」テーマに、福祉・医療に関わる「ありがとう」を集め、広めていくこと、また福祉・医療機関に従事されている皆さまを元気にしようという目的で、福祉・医療に従事されている皆さまに本学学生が直接インタビューさせていただき、そこで伺ったリアルなエピソードを集め、冊子にいたしました。

そして、プロジェクト3年目の今年には、学内における『感謝～ありがとう～』の理念を浸透させることを目的に、これまでの取り組みの集大成として、学生および教職員が中心となりプロジェクト報告ムービーおよび楽曲『ありがとうのうた』の制作に取り組みます。

ありがとうの多い人生は、いい人生だ。



書籍『ありがとうが生まれたとき』全国書店にて販売中!

開学100周年記念「ありがとうプロジェクト」から、書籍『ありがとうが生まれたとき』《医療・福祉の現場の「リアル」を伝えるフルカラーインタビュー集》が、全国書店にて発売中です。お知り合いの方へご案内いただきますとともにぜひご購入ください。

「全学まちピカ☆大作戦」の開催

開学100周年記念イベント地域貢献事業の一環として、日ごろお世話になっている地域の皆さまに、開学100周年のキーコンセプトである『感謝～ありがとう～』を具現化すべく、『全学まちピカ☆大作戦』と題した、清掃活動を実施しています。

第1回の紫野キャンパス・岩倉キャンパス周辺の清掃活動（2011年10月9日）に引き続き、第2回目は、2012年2月11日（祝・土）に広沢キャンパス周辺にて清掃活動を行いました。当日は、附属幼稚園園庭にて「ぶったん」の応援を受けた学生・教職員およそ60名がオリジナルキヤップをかぶり、午前10時から11時までの約1時間、ポイ捨てゴミ等の回収に励み、ゴミ袋（45kg）約11袋分のゴミを回収しました。ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。なお、以下の日程で「第3回 全学まちピカ☆大作戦」を開催いたします。

- 日 程：平成24年6月17日(日) 【*雨天の場合は中止。】
 - 集合・受付：午前9時30分～
 - 開会式：午前10時00分～
 - 清 掃：午前10時30分～11時30分
 - 場 所：二条キャンパス周辺
 - 内 容：学生・教職員による清掃活動
- 今後も継続して、まちの美化活動を企画推進していく予定です。



オープニング開会式

山極伸之学長、100周年記念事業推進検討委員会委員長の浜岡政好副学長挨拶、南丹市長佐々木椋納様のご挨拶に続き、100周年記念事業推進学生プロジェクトメンバーの吉田明日香さんの開会宣言によりイベントが始まりました。



模擬店物産店

模擬店物産店には地元菓子店レストランや美山からの出店があり、家族連れなどのお客さままで賑わいました。ご出店でご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。



スポーツゾーン

雨天のため、午前中の教室は中止となり、午後からは、野球教室が開催され、本学硬式野球部コーチや部員による指導による指導のもと、小学生らが、野球を楽しみました。



交流ゾーン

ステージイベント ステージでは、京都府立淇陽学校が勇壮な和太鼓演奏を繰り広げたのをはじめ、園部吹奏楽団が大ヒットした「マルマルモリモリ」や、いきものがかりの「ありがとう」を披露し、また、本学から出場した課外活動団体も日ごろの活動成果をステージ上で披露し、会場を大いに盛り上げました。



文化講演会落語

文化ゾーン 小林良正先生の「セミナーハウス 和順」では、午前の部は10時30分から、午後の部は13時30分から笑福亭鶴二師匠ほかの皆さまによる落語や寄席囃子、大喜利が行われました。



ファイナーレ閉会式

清水穂副学長、山極伸之学長の挨拶に続き、100周年記念事業推進学生プロジェクトメンバーの藤澤友也さんの閉会宣言の後、音と光の演出によるファイナーレイベントにより本イベントの幕を閉じました。ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。



開催日時 平成23年12月3日(土) 9時30分～16時30分
開催内容 ステージイベント、野球教室、模擬店・物産店、フリーマーケット、文化講演会(講師:小林良正上人・良正庵庵主)、落語(笑福亭鶴二師匠 他)

「園部キャンパス祭り」の開催



ラジオ放送「B-ism Radio!」

NOW ON AIR!
B-ism Radio!
SUN 20:30-21:00 KYOTO 89.4MHz

放送は、毎週日曜日 20:30~21:00、
京都FM 89.4MHz
番組名は、「B-ism Radio!」
皆さまのお知り合いの方にPRいただくと共に、
ぜひお聞きください!

100周年記念事業の一環として、
佛教大学放送局の学生がDJを務める番組「B-ism Radio!」
がエフエム京都の「STATION」にて2011年11月6日よりスタートいたしました。
この番組は、2012年に開学100周年を迎える「佛教大学」の「今」「これから」「絆」などを通じて勉学、教育、サークル、スポーツ、カルチャーにまつわる軌跡や将来の夢に繋がるさまざまな活動をパライティに富んだゲストを招きながら紹介していきます。
「輝き」をもった佛教大学生の魅力を、ぎゅっと凝縮した30分番組です。

本年10月23日に開学100周年を迎えることを学外へ周知することはもとより、育てていただいた地域の皆さまをはじめ、多くの有縁の皆さまへ「100周年基本コンセプト」感謝ありがとう〜の気持ちを伝えるため、ならびに、本学の礎を築いていただいた先人への感謝をお伝えしたいという想いを込め、本学の建学のルーツである仏教講究機関跡(知恩院)を目指し学生・教職員・同窓による100周年記念パレードを5月20日(日)に実施いたしました。
当日は、晴天のなか、約400名の学生・同窓・教職員が、御池大橋下流西側河川敷広場に集合し、13時30分から14時30分の間、御池大橋西側から河原町、河原町四条、祇園を経由し、ゴールである建学の地(知恩院)の三門前広場を目指し、約2.2kmの距離をパレードしました。



また、パレードが通過するルート上の交差点付近および知恩院三門前広場にて「東日本大震災救援金」募金活動を実施いたしました。なお、当日、皆さま方からお預かりした救援金募金総額111,557円は「東日本大震災救援金」としてパレード学生実行委員が5月28日に、京都新聞社福祉事業団へ持参いたしました。多くの温かい善意をお寄せいただき、誠にありがとうございました。
あわせて、多くの犠牲者を出した交通事故(2012年4月12日発生)現場付近四条縄手交差点において、交通安全を願い、本学関係者による献花と、犠牲者追悼を行いました。
沿道より、ご声援を賜りました地域の皆さま方、ならびにパレードにご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。

開学100周年の記念サイトを4月1日付けでリニューアルオープンいたしました。各種100周年記念関連事業や100周年記念イベントグッズ情報などを発信してまいります。



URL: <http://www.bukkyo-u.ac.jp/100th/>
本学サイトよりお進みください

1月から、学内店舗において、オリジナルグッズを販売しております。来学の際は、スクールバス特注トミカ、硬式野球部キュービー、陸上競技部キュービー、ボールチェーナムスコットなど、ぜひご購入ください。



二条キャンパス内《売店 ビーワンショップ》
場所：二条キャンパス1号館1階
営業時間：平日(月曜～金曜)8時45分～17時30分
・(土曜)9時00分～17時00分

- 【販売オリジナルグッズ】
- ボールチェーンマスコット《新発売》
販売単価 500円(税込)
 - スクールバス特注トミカ
販売単価 1,000円(税込)
 - 硬式野球部キュービー・陸上競技部キュービー
販売単価 各460円(税込)

- 【取扱窓口一覧】
- 紫野キャンパス内 《セブンイレブン佛教大学店》
場所：紫野キャンパス 2号館地下1階
営業時間：平日(月曜～土曜)9時～15時

開学100周年記念サイトのリニューアル

オリジナルグッズ学内販売のご案内



開学100周年記念「ALL佛大ぶったんパレード」佛教大学開学100周年カウントダウン2012・10・23の開催

今後の100周年関連行事の予定

■平成24年9月23日(日)
京都サンガイイベント

- 名称：京都サンガイ佛教大学100周年記念スペシャルデー
- 会場：西京極スタジアム

■平成24年9月28日(土)
開学100周年記念シンポジウム

- 「のちをのびなく」感謝ありがとう〜とともに(仮称)
- 時間：午後1時30分から午後3時
- 会場：本学 紫野キャンパス
- 講師：渡部陽氏(戦場力メラン)
- 講演題目：未定
- 入場無料：来聴大歓迎(事前申込制)
- 参加申込：8月下旬より本学100周年サイトおよび読売新聞紙面等に参加者募集

■平成24年10月23日(火)
開学100周年記念式典・祝賀会

- 会場：本学 紫野キャンパス 常照ホール他
ホームカミングデー

■平成24年12月まで(詳細は100周年サイトにて)

- ① 仏教学部講演会
- ② 歴史学部講演会
- ③ 文学部講演会
- ④ 教育学部講演会
- ⑤ 社会学部講演会
- ⑥ 社会福祉学部編講演会
- ⑦ 保健医療技術学部編講演会

B-ism

2012
June

生まれ育った町に、活気をもたらしたいと思っています。

社会学部公共政策学科4回生 渡辺 俊さん

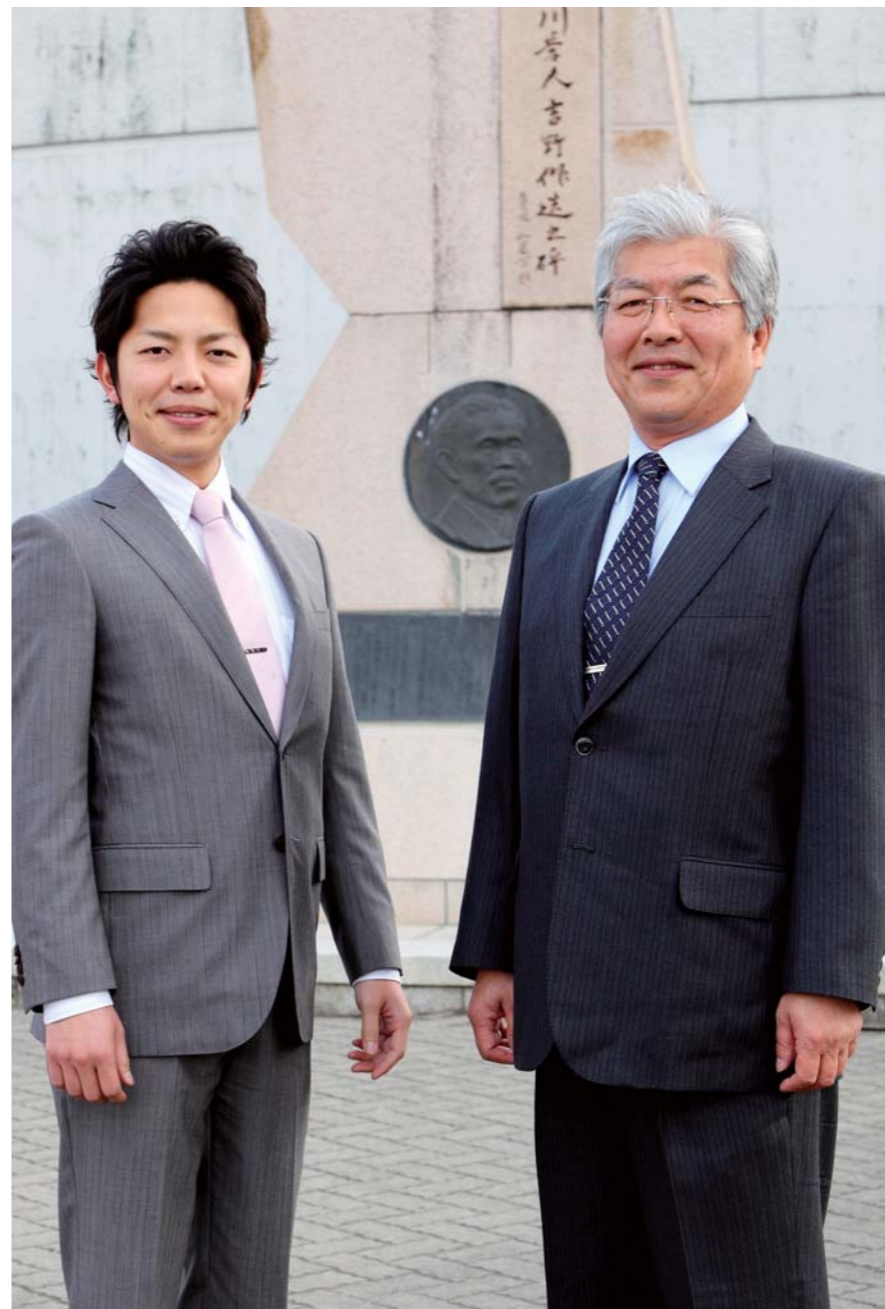


「帰郷すると、充実した日々を送る父の姿がありました。こう語るのは、父親が代表を務める不動産会社で、営業を担当する渡辺俊さん。16歳で上京し、高校、専門学校、飲食店勤務などを経て、生まれ故郷の古川に帰ってきたのが2年半前、26歳の時。多忙ながらも、本学の通信教育課程でイキイキと学ぶ父親の姿に驚き、憧れた。「今まで苦手を勉強を避けてきたんですが、父の会社に入社するにあたり、宅地建物取引主任者の資格取得に挑戦し、学ぶことの楽しさに気づいたんです」。ほどなく父の勧めもあり、本学の門扉を遠く宮城から叩いた。

所属は社会学部の公共政策学科。志望理由は不動産業に従事していること、そして郷土愛に根ざしている。「久々に帰ってきた古川は、私の目にさびしく映った。若者は仙台や東京などの大都市に進路を求め、少しずつ人口減少が進む故郷。昨年3月の大震災もそれを助長しかねない状況にある。故郷に活気を与えたい」と、地域活性化についての勉強をスタートさせた。

「学科生の年齢層は幅広く、私が一番若いくらい。大企業の社員、お天気キャスターなど、様々な職業の方がいます。昨年8月に初めて参加した京都でのスクーリングでは、多くの刺激をもらった。「様々な人との交流は、若輩の私にとって人生の勉強になります」。メールなどを通じて交流は続けており、「まちおこしのヒントも得ている。滋賀県の役所にお勤めの方が、旧城下町の建物を活かした地域活性化を推進していると聞きまして、本来あるものを活かした、まちおこしの重要性を教わりました。考えるのは、大崎市が本州一の生産量を誇る大豆を活かした施策。「豆腐や醤油産業への転換」を、思案する。

現在は「仕事との両立が難しい」と、勉強時間の確保に苦労しているという俊さん。おかげで父親の眞さんから厳しい言葉をもらうこともあるという。「計画的な勉強を心がけたい。経営者として、人間として尊敬する父の叱責やアドバイスも励みに、頑張りたいです」。



宮城の親子学生、 住みなれた地で大いに学ぶ。

父 渡辺眞さん
子 渡辺俊さん

文学部人文学科 浄土・仏教コース5回生 渡辺 眞さん

仏教を学び、奉仕の気持ちに迷いなくなりました。

「ロータリークラブがなぜ日本で浸透したのか。渡辺眞さんの仏教への関心は、キリスト教社会のアメリカが発祥の団体、ロータリークラブでの活動がきっかけだった。「ロータリーの『超我の奉仕』は、仏教の『利他』や『慈悲の心』に通じるのではないか、と思ったんです。日本には仏教の教えが根づいているからこそ、ロータリーは日本で9万人もの会員を持つまでになったのだらう——。そう推測するとともに、仏教に興味が出てきた眞さんは、大学への憧憬もあり入学を決めた。

現在57歳。忙しい合間をぬって机に向かう。京都でのスクーリングでは10代の同窓生と体育で汗を流し、校友会のブロック長としては試験や本学から教授を招いての学習会の設営にも精を出す。「学びは楽しい。東北は学生も少なく孤独になりがち。交流の機会を設け、励まし合っています」。試験会場では入口に立ち、学生一人ひとりに声をかけるという。

「得たものは限らないが、「奉仕活動に迷いなくなった」こともひとつ。「以前は人目を気にし、ためらいがあったりしましたが、仏教を学ぶうちに、気持ち良く自然に行えるようになりました。被災地への支援や、地元図書館への本の寄贈、スポーツ大会のスポンサーになるなど活動の幅を広げている。

また、創業者にして代表を務める不動産会社でも仏教の教えは活かされる。「つい朝礼では、『お役立ち』とか『思いやり』とか、『こころ持ち』について、話がちです」。

後継者の長男、俊さんには期待の裏返しで時に苦言も呈す。「創業者には時勢が良くて、多少の運があればなれる。でも二代目はより多くの能力を持たなければ、他から認められない。だからこそ、佛教大学での勉強を奨励する。息子の勉学のきっかけとなり、うれしく思っています。これからは息子たちの時代。自分を鍛え、そして人生を充足したものにしたいですね」。

「最後に、自らを『古川学人』と称し、郷里をこよなく愛した政治学者・吉野作造博士の言葉が、行かざれば、到らず、事、為さざれば成らず」をエールに送りたいと思います」。

宮城県の北西部に位置する大崎市、古川地区。
大正デモクラシー、民本主義で有名な
政治学者・吉野作造の生誕地でもあるこの地で、
佛教大学生が親子で不動産業を営みながら勉強に励んでいる。
遠く宮城から佛教大学を志した理由、学びの楽しさ、活かし方、
そしてお互いへのメッセージなどを聞いた。

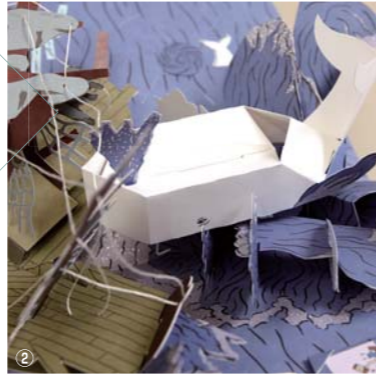


通信教育課程本科生



野間 正二(のま しょうじ)
1949年生まれ。大阪市立大学大学院博士課程中退。京都大学博士(文学)。京都府立大学文学部教授を経て、2007年4月から現職。専門はアメリカ文学、比較文化。著書に「キャッチャーインザライ」の謎をとく」「グレート・ギャツビー」の読み方(いずれも創元社)、「小説の読み方論文の書き方(昭和堂)」、「芝居もおもしろい」(近代文芸社)など。

先生のお気に入り
favorite
白鯨
第三回 文学部 英米学科教授 野間 正二先生の巻



小説や映画でも有名な
白鯨に憧れて

少年の頃から鯨の大きな姿に憧れ、その写真を見るのが好きでした。特に白い鯨、なかでも白い抹香(まっこう)鯨が大好きです。鯨は普通黒い色をしているものですが、色素が抜けて白色のアルビノが生まれることもあります。

私自身は、アルビノの抹香鯨にはお目にかかったことはないですが、どうも実在したことはあるようで、その鯨が主人公(?)になった小説がアメリカの作家ハーマン・メルヴィルの長編『白鯨』(写真①・約100年前の版)です。

元来、抹香鯨は気の荒い肉食の鯨で、小説のなかでも、その白鯨は自分を執拗に追跡してきた捕鯨船と船員たちに反撃をくわえて殺してしまふ。そして、ただ一人生き残ったイシュメルが語り手となって、そのいきさつを語るのが小説『白鯨』です。この小説はアメリカを代表する名作であるため、子供向けの『飛び出す絵本』(写真②)も販売されているほど。当然、何度か映画化もされていて、なかでも1956年に製作された作品が最高傑作だと思います。

写真はすべて野間先生の鯨コレクションです



母に伝えた驚きと喜び

「まさかこんな大きな賞がもらえるとは、思ってもみませんでした」。

全国書道展で唯一の宮杯である高円宮杯日本武道館書道大展覽会。伊藤舞香さんは昨年の第27回大会で、毛筆の大学生部門で第一席(一位)を、全体でも文部科学大臣賞に次ぐ特別賞である日本武道館会長賞を受賞した。驚いたのも無理はない。勉強などで忙しく、作品を仕上げたのは学内の応募締切り一週間前、本人曰く「ギリギリ」だったからだ。「一日部屋にこもって書ききりました」と語る作品は、趙孟頫の草書千字文を約120文字したためたもの。素人目にも優美さと力強さを感じさせる書だ。

受賞を知らされると、驚きと喜びが入り混じったその感情を、伊藤さんは真っ先に母親に伝えた。「書道を始めたのは、経験者だった母のすすめ。金銭面はもちろん、私が納得いく作品が書けなかったり、ライバルに負けて悔しさから落ち込んでいるときも、支えくれました」。授賞式に

書道の高円宮杯で、
学生全国トップに!



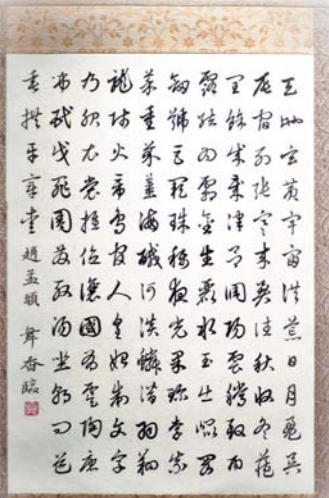
書道研究会

文学部 人文学科4年生 伊藤 舞香さん

出席するために東京へ行くこと、そして感謝の気持ちを伝えると、母親は「やったね、努力が実ったね」と、目を潤ませた。

墨の香りに心が落ち着く

今年4年生になった伊藤さんの夢は小学校の先生。すでにボランティアで小学校に行き、放課後の学童保育での学習指導や、書道の時間には教えたりもしている。「書道が好きで、子どもが好き」という伊藤さんに、これ以上ぴったりの職業はないかもしれない。しかし、これから多忙な日々が続く。小学校の教員免許に必要な単位取得のために、通信教育課程を併修しているほか、教育実習、採用試験、卒業論文も控える。文化祭では所属する書道研究会として、今までにない斬新な企画を温めてもいる。そしてもちろん、学生時代最後の高円宮杯にも取り組まなければならない。「前回の作品には、自分の中では満足していないんです。前回以上に集中して、より気持ちをこめて書きたいですね」。





一驚愕の交通事情

なうな掌話 その六

日本での常識を超えるバイクの話

ベトナムで目を疑った光景！ それは、道路を埋め尽くすバイクでした！ベトナムでは、車が通るには道が狭いためバイクが便利なのです。多いときは4人が1台のバイクに乗っています。現地の方に聞くと「小さい子供は乗れるだけ乗せてもよい」とのこと。車線もなく、信号も少ないベトナムでは、クラクションの音が鳴り響いていました。

日本では『歩行者優先』ですが、ベトナムでは歩行者の優先順は『最下位』……。何度もバイクが車にひかれそうになりました。日本の常識では考えられない交通事情に、驚きばかりでした！



社会学部 現代社会学科4回生 濱口 潮理さん (はまぐちしおり)

日本代表として世界の中で発表するという機会には私にとって大変貴重な経験となりました。苦手の英語にあえて挑戦し、先生や仲間を支えられながら、今回の発表を成功できたことは自分の英語力の向上だけでなく、人間として大きく成長できた実感しています。原稿ができてから発表までの期間が一月しかなく、就職活動が本格化する中、時間をなんとか確保し練習してきました。初めは原稿中の単語を一つ一つ発音を調べ、アメリカに住む日本人の方に協力して頂き発音を知るといいう作業からスタートし、聞くこと、読むことをひたすら繰り返して練習してきました。そして研究内容をしっかりと伝えることと10分という限られた時間の中で英語のスピードの微調整に悩み、発表前夜まで頭を抱えました。本番では想像以上の会場の広さと人の多さに圧倒されながらも、チームで協力し発表を成功させることができました。あつという間の時間でしたが、発表を終え、京都市の関係者の方や他国の学生からお褒めの言葉を頂くことができ、大きな達成感を感じました。このような機会を与えてくださった京都市関係者の方々、学校関係者の方々、チームの仲間からお礼申し上げます。

report-3 プレゼンテーションを終えて 英語での発表に向けて

社会学部 現代社会学科4回生 島田 陽一郎さん (しまだよういちろう)

英語での発表に向けて

日本代表として世界の中で発表するという機会には私にとって大変貴重な経験となりました。苦手の英語にあえて挑戦し、先生や仲間を支えられながら、今回の発表を成功できたことは自分の英語力の向上だけでなく、人間として大きく成長できた実感しています。原稿ができてから発表までの期間が一月しかなく、就職活動が本格化する中、時間をなんとか確保し練習してきました。初めは原稿中の単語を一つ一つ発音を調べ、アメリカに住む日本人の方に協力して頂き発音を知るといいう作業からスタートし、聞くこと、読むことをひたすら繰り返して練習してきました。そして研究内容をしっかりと伝えることと10分という限られた時間の中で英語のスピードの微調整に悩み、発表前夜まで頭を抱えました。本番では想像以上の会場の広さと人の多さに圧倒されながらも、チームで協力し発表を成功させることができました。あつという間の時間でしたが、発表を終え、京都市の関係者の方や他国の学生からお褒めの言葉を頂くことができ、大きな達成感を感じました。このような機会を与えてくださった京都市関係者の方々、学校関係者の方々、チームの仲間からお礼申し上げます。

report-4 プレゼンテーションを終えて 貴重な経験になりました

社会学部 現代社会学科4回生 櫻井 紗希さん (さくらいさき)

貴重な経験になりました

今回の世界歴史都市会議での発表は、私の人生において本当にかげがえのない思い出と自信を与えてくれました。初めての英語での発表というところもありましたが、ゼミで打ち込んできた成果を、日本代表として、他国の方々の前で発表できたからです。正直初めは、慣れない英語を聞きとつてもらえるのか、そして、就職活動と並行して取り組んでいけるのか、たくさん不安がありました。しかし、限られた時間を大切に、仲間と協力し合いながら、取り組むことができたと思います。そして、今、改めて体験したことのない、国際会議の雰囲気、緊張が一気に高まりました。そして、直前にデータがないというハプニングもあり、逃げたくもありませんが、周りの方の協力のおかげで、無事発表を終えることができました。終わった瞬間は、今までに感じたことのない達成感を体いっぱい感じることができました。また、他国の学生によるプレゼンのレベルの高さにも刺激を受けました。

今回の貴重な体験に参加するきっかけを与えてくれた京都市の方々や支えてくれた先生方、チームのみんなには本当に感謝しています。今後社会に出て、多くの困難に直面するかもしれないと思いますが、その度に今回の経験を思い出して励みになりたいと思います。



編集後記



世界歴史都市会議の記事を読んでもう一度ありがとうございます。この記事を読みながら感じられたでしょうか。今回、私たちは多くの方の支えにより世界歴史都市会議に参加することができました。そして、参加できたことは私たちにとって非常に良い経験であり、今後にも活かしていこうと思います。

歴史遺産は今後も残していかなければならないものであると考えています。この記事を読み、多くの方に歴史遺産に興味を持っていただくことができれば嬉しく思います。



社会学部 公共政策学科4回生 塩見 将大さん (しおみまさひろ)

B-ism 2012 June

なうな掌話 その七

一 ストリートチルドレンを救おう

ベトナム 「子どもの家」

ベトナムはストリートチルドレンが少なくないことを知っていますが、そのような子どもたちのために日本人の方が「子どもの家」を設立し、現在約60名の子どもたちが、そこで生活しています。建物の中には、図書室や音楽室、共同部屋などがあり、子どもたちは楽しそうに勉強やゲームをしていました。また、私たちに歓迎の気持ちを込めて、ダンスや歌を披露してくれました。「子どもの家」に、洋服や絵本などを送ると、子どもたちはすごく喜んでくれると思います。もし、興味があれば一度調べてみてください。



社会学部 現代社会学科4回生 松岡 絵里さん (まつおかえり)



report-1 世界歴史都市会議とは

社会学部 現代社会学科4回生 田中 雄介さん (たなかゆうすけ)

世界歴史都市会議への参加

世界歴史都市会議は、歴史都市が直面している環境問題などの解決や歴史都市発展のための事業実施にむけて、情報交換や共同研究などを行うことを目的として開かれる。本会議は1987年に京都市の呼びかけにより始まり、現在、57カ国92都市が世界歴史都市連盟に加盟している。今回、第13回会議がベトナムのフエ市で



行われた。私たちは、昨年12月4日にキャンパスプラザ京都での第7回政策系大学・大学院研究発表大会で発表したことを基に、本会議に参加した。そこでは、橋詰弘武、島田陽一郎、櫻井紗希の3名が「京都のライフスタイルの変化と歴史遺産」について発表。また、若者が集うユースフォーラムで、発表者3名に加え、塩見将大、田中雄介、濱口潮理、松岡絵里の計7名で京都の伝統保全について活発に議論を行った。他にもフエ、ホイアンの歴史遺産を視察したり、門川大作京都市長の発表を聞いたりするなど、この会議に参加して、産業遺産が直面する課題を肌で感じてきた。

report-2 歴史都市京都のライフスタイルの変化と歴史遺産

社会学部 公共政策学科4回生 橋詰 弘武さん (はしづめひろたけ)

京都の歴史遺産の保護・継承

核家族化や少子高齢化などの社会変動により、影響を受けている歴史遺産の一つに京町家があげられます。京町家の空き家は年々増加しており、このままでは京都の伝統的な町並みが崩れてしまうという問題があります。また、京都の盆行事は他の地域と比べて独自性があります。京都では8月初旬から中旬に祖先の霊をあの世からこの世に迎えて共に過ごします。そして8月16日の五山送り火で、「送り火」を焚いて、祖先の霊を再びあの世に帰すのです。マスメディアでは、送り火が観光行事として取り上げられますが、宗教的行事としての伝統的意味は十分に伝えられていません。そのため伝統的意味の認知が低いのが現状です。

われま。しかし、この地蔵盆もライフスタイルの変化や少子高齢化によって、衰退しています。私たちは歴史遺産の価値の保護と向上に向けて、TwitterやfacebookなどのSNSを利用して情報発信を行うことを提案します。SNSやインターネットを使った広報は現代のライフスタイルにもマッチしています。若い世代が、歴史遺産の伝統的意味を発信する起点となり、人と人との橋渡しとなる必要があると思います。これこそが、私たちが今、取り組むべきことなのではないでしょうか。

また、京都の盆行事の一環として、8月下旬に「地蔵盆」と呼ばれる行事が町内会ごとに行



THE 13TH WORLD CONFERENCE OF HISTORICAL CITIES

国際会議へ チャレンジ！

世界歴史都市会議で、日本の若者代表として発表、議論を行って

取材・編集 櫻井紗希 島田陽一郎 田中雄介 濱口潮理 松岡絵里 塩見将大 橋詰弘武



三重県にある大村神社の地震災害除けの絵馬。描かれているナマスは古来地震を引き起こすと言われてきた。

さらには他府県にも及んだ。地震災害は、起こった地域だけの問題ではないのです。地震災害を局地的ではなく、包括的に捉えて対応をする。「地震列島」に暮らす日本人に、極めて重要な提言を植村先生は投げかけ続けている。植村先生がゼミ生に求めることは、いつの時代も二つ。一つは「空間と時間の認識能力です。地図を読み取り、書かれている地形や地域の構造などを、歴史的観点から把握する三次元的な発想力を身につけて、自分の研究を進めていくって欲しい。」



研究室の廊下に置かれた京都府南丹市日吉町の殿田断層ハギトリ。左右の色(白と黒)の違いは、断層の動きの激しさを物語る。

もう一つは「フィールドワークの重視。自然地理学のフィールドである地域は、本や写真を眺めているだけでは理解できません。現地に行って歩く、見る、観察する、聞くことが大切。出かけて行って問題と解決策を見つけて欲しいと思います」。このゼミでも当然今後はほとんどフィールドワークを実施していく予定です。かくいう植村先生も、様々なフィールドに出向いてきた。その一つがニュージーランド。「地理的条件、地震の頻度、地すべりや活火山の多さをはじめ、ニュージーランドと日本は似た環境にあるんですが、復旧・復興の組織や政策などでは日本の及ばない部分が多々ある。その研究

の？」と驚きの声を上げた。が、表情は嬉しさを隠せない。一方でゼミ生たちは、早くも植村先生の研究に魅せられている様子。植村ゼミの魅力が垣間見えた瞬間だった。

Professorial Seminars

災害の歴史的な探求から、現代と未来における人間社会のあり方を探る

地震災害や水害を自然地理学の観点から研究。多彩で確かな実績と、親しみやすい風貌、語り口で人気を集める植村善博先生のゼミにお邪魔し、研究・活動内容などについて語ってもらった。

歴史学部 歴史文化学科教授

植村 善博

植村 善博(うえむら よしひろ) 1946年生まれ。立命館大学文学部卒業。立命館大学大学院文学研究科修士課程修了。立命館大学博士(文学)。京都府立峰山、田辺、鴨沂、朱雀の各高等学校教諭を経て、現職。専攻は自然地理学。著書に「京都の地震環境」(ナカニシヤ出版)、「比較変動地形論-プレート境界域の地形と第四紀地殻変動」(古今書院)、「京都の治水と昭和洪水」(文理閣)など。



「今、東日本大震災の被災要因や復旧・復興施策について考えるということは、未来の人間社会と自然のあり方を考えるということですよ」。

3回生所属の植村ゼミは、コーヒーマシンの香りとともに始まり、心地良い緊張感に包まれながら進んでいく。この日も書籍でいっぱい研究室で、ゼミ生たちは植村先生の話に聞き入っている。

自然地理学は考古時代から現在に至るまでの自然と人間の関わり合いを明らかにするのが大きな目的。一つの側面として、植村先生は自然災害の研究を長年にわたって続けてきた。「自然と人間の接触が、最も端的かつ強烈なカタチで表れるのが地震。その歴史性を捉え、頻発する地域の特徴、減災・予知方法などを探求し発信していく、これが私の課題です」。そしてそれはやがて、「災害の文化」「防災の文化」となって、新たな人間社会のしくみを形成する。植村先生は、人間の災害への対応力の進歩が、

文明の進化につながったと考える。

本ゼミでも、主な研究テーマは災害。今年4月開講とまだ日が浅いが、植村先生はゼミ生たちに早くも研究発表の機会を与えた。立命館大学の歴史都市防災研究センターで実施された「丹後震災85周年記念特別展 in Kyoto」。1927年に京都府北部の丹後半島付近で発生した「北丹後地震」についての資料展示会だ。植村先生を中心として開催された展示場で、ゼミ生は様々な切り口による調査結果を発表。「被害状況、要因となった活断層の特徴、軍隊・赤十字社による救護活動の様子、復興計画などについて発表してもらいました」。

古い地震災害の記録を辿ることの意義は、現代の私たちが教訓を得て、新たな地震に対応する術を見出すことにある。また、「北丹後地震」による被害は、丹後地域だけでなく、絹織物の工場が打撃を受けたことで、京都の経済、

「どんな質問にも丁寧に答える植村先生」

植村先生はどんな質問にも懇切丁寧に答える。不真面目なんてとんでもない、植村先生の生真面目さが存分に発揮され、この日のゼミは終わりのチャイムを聞いた。



「私には不真面目だからね」という植村先生。2回生の時に植村先生担当の演習でフィールドワークに参加したゼミ生によると、現地の人たちとのコミュニケーションの取り方が印象に残ったという。「初対面とは思えないほど和気あいあいと接しておられて。会話が弾み過ぎて、相手の方が聞きたい内容とは関係のない話をするほどだったんですが、先生は軌道修正の仕方自然でした」。

最後に先生への質問コーナーを実施。好きな音楽、ニュージーランドでの生活の様子、研究室に紅茶を置いてほしいという提案、さらには植村先生の独特のヘアスタイルに関するクエスチョンにまで、とにかく

ある日の植村ゼミ

開講からまだ間もないということで、この日ゼミ生の皆さんに、植村ゼミを選んだ理由、そして植村先生への質問を受け付けてみた。

ゼミを選んだ理由には、やはりと言うべきか地理への興味と、植村先生の魅力を挙げる声が多い。前者では、「地図を眺めるのが好き」や「地震を研究したい」、さらには「京都の舞子さんの研究を地理的な観点から行いたいから」というユニークな発想も飛び出した。それについてもアプローチの方法を、丁寧に提案する植村先生が印象的だった。

先生自身の魅力については、「話しやすい」「硬さがな



2012 June

佐々木酒造(株)代表取締役

佐々木 晃さん

佛敎大学文学部中国語学科卒業

酒蔵と日本酒を、次世代につなぐために。



佐々木 晃(ささき 晃) 1970年京都生まれ。佛敎大学文学部中国語学科を卒業後、産業機械販売会社の営業を経て、佐々木酒造に入社。2010年に代表取締役役に就任。現在、日本酒講座やイベントを通じて新たな日本酒ファンを増やすことにも努めている。



■歳は兄が継ぐはずだった!
年季の入った引き戸をガラガラ開けると、甘い香りと、端正な顔立ちの男性が迎えてくれた。
男性の名は佐々木晃さん、京都市上京区の閑静な地に佇む佐々木酒造(株)の4代目だ。明治26年創業、今年で119年目を迎えた自家でもある老舗の酒蔵を継ぐべく入社したのは今から17年前、25歳の時。予期せぬ展開だった。「私は三人兄弟の末っ子。長男は早くから継がないと言いつつ、突然俳優になると言い出して、上京してしまっただけです。父の代まで続いてきた酒蔵を「誰かが継がなければ」と、勤務先を辞め、三男は「家」に戻った。学生時代は中国語学科、勤め先も機械販売会社だった佐々木さんには酒造りの経験は皆無。しかし販路探しを中心に、懸命に働いた。「兄が帰ってく

るまでの留守番のつもりだった」。その兄、佐々木家の次男とは、人気が絶頂の佐々木蔵之介さん。「最近になってようやく『もう帰ってほしくないかな』と思うようになった(笑)」と、兄の活躍ぶりにはほほを緩める。

■品質安定と日本酒ファン拡大へ

蔵を構える「洛中」といわれる辺りは、大昔は酒造りで栄えた地域。酒蔵も多かったが、時代とともに衰退し、今では佐々木酒造のみに。「日本酒の消費量が減り、市場も小さくなっているのは事実。でも、だからこそより高品質のものを造る必要がある」と、4代目は「品質の安定化」に対する取り組みを開始。「地域の研究機関のサポートを仰ぎ、例えば製造過程で酸度やアルコール度数、糖度に加えて、香気成分やアミノ酸分析などを行い、いつも同じ味が出せるようにしています」。

また、販路と日本酒ファン拡大の観点から、府内外を問わずイベントに参加したり、独自にも佐々木酒造の酒を披露する機会を多く設けている。蔵を一般に開放し、試飲などをしてもらう「蔵開き」では、佛敎大学のインターンシップ生が毎年お世話に。「学生の方に1日の企画立案、司会者の原稿、100人ほどのお客様の誘導などを行ってもらっています」というように、母校の学生に経験の場を提供してくれている。終始穏やかな口調だった佐々木さんに、最後に今後の展望を聞くと、少し語気が強くなった。「私の役目は、この酒蔵を次の世代へつなぐこと。味の安定化、イベント開催はそれのため。私の代で終わらせるわけにはいかないんです」。その言葉には、老舗酒蔵の当主としての気概があふれていた。



卒業論文のテーマは李白。「お酒にまつわる多くの詩について考察しました」

B-information

みんなの掲示板

2012年 主な行事予定

<p>Date 9 / 1 (sat.)</p> <p>13:30 ~</p>	<p>佛敎大学通信教育課程60周年記念シンポジウム・BUまなび隊特別企画「生涯にわたり学ぶということ」～あなたの可能性を拓くために～</p> <p>●会場：大阪市中央公会堂</p> <p>●基調講演：乙武 洋匡 氏</p> <p>※詳細は、7月中旬頃通信教育課程ホームページに掲載予定です。</p>
<p>Date 9 / 23 (sun.)</p> <p>13:30 ~ 15:00</p>	<p>京都サンガイイベント</p> <p>京都サンガイ佛敎大学100周年記念「スペシャルデー」</p> <p>●会場：西京極スタジアム</p>
<p>Date 9 / 29 (sat.)</p> <p>13:30 ~ 15:00</p>	<p>開学100周年記念シンポジウム「いのちをつなぐ感謝とありがとう」(仮称)</p> <p>●会場：本学 紫野キャンパス</p> <p>●講演：渡部陽氏(戦場カメラマン)</p> <p>※P.11参照</p>

<p>Date 9 / 30 (sun.)</p> <p>13:30 ~</p>	<p>平成24年度学位記・卒業・修了証書授与式(9月卒業・修了)</p> <p>(通学課程後期大学院第60回学部、通信教育課程後期第12回大学院、第56回学部)</p>
<p>Date 10 / 23 (Tue.)</p> <p>13:30 ~</p>	<p>開学100周年記念式典・祝賀会</p>
<p>Date 11 / 1 (Thu.) ~ 3 (Sat.)</p> <p>13:30 ~</p>	<p>第46回鷹陵祭(学園祭)</p> <p>佛大生のみならず、老若男女すべての方に笑顔があふれる学園祭を開催</p>
<p>Date 11 / 3 (Sat.)</p> <p>13:30 ~</p>	<p>ホームカミングデー</p> <p>●会場：本学 紫野キャンパス 常照ホール他</p>

ぶつたんとカウントダウンボード
本学が開学100周年を迎える今年の創立記念日(2012年10月23日)までカウントダウン表示しています

<p>『冥顕論』 法蔵館 2012年3月30日 編著 池見澄隆(仏教学部嘱託教授) 7,350円</p>	<p>『英和中辞典』 小学館 2012年2月28日 編集主幹 瀬戸賢一(文学部教授) 3,675円</p>	<p>『ミルトンの芸術的理論的研究』 風間書房 2012年3月31日 森谷峰雄(文学部教授) 16,800円</p>	<p>『生き甲斐の社会史』 近世キリスト教の心性 昭和堂 2012年3月27日 著 キーストマス・沢川北穂(歴史学部教授) 4,200円</p>
<p>『線型代数学入門』 共立出版 2012年4月10日 丹後弘司(教育学部教授) 2,625円</p>	<p>『教職とは?』 エッセイから見える教師・学校 教育出版 2012年3月30日 「教職とは?」編集委員会 代表 砂田信夫(教育学部教授) 2,310円</p>	<p>『線型代数学入門』 共立出版 2012年4月10日 丹後弘司(教育学部教授) 2,625円</p>	<p>『近世上方歌舞伎と堺』 佛敎大学研究叢書14 思文閣出版 2012年2月25日 斉藤利彦(歴史学部准教授) 6,615円</p>

<p>『論理・集合と位相空間入門』 共立出版 2012年4月10日 栗山 憲(教育学部教授) 2,625円</p>	<p>『障害のある子どもたちのための教育と保育』 エッセイから見える教師・学校 教育出版 2012年3月30日 「教職とは?」編集委員会 代表 砂田信夫(教育学部教授) 2,310円</p>	<p>『線型代数学入門』 共立出版 2012年4月10日 丹後弘司(教育学部教授) 2,625円</p>	<p>『近世上方歌舞伎と堺』 佛敎大学研究叢書14 思文閣出版 2012年2月25日 斉藤利彦(歴史学部准教授) 6,615円</p>
<p>『日英のフィールド調査から考える』 学校図書館における特別支援教育のあり方 (佛敎大学研究叢書16) ミネルヴァ書房 2012年2月20日 松戸宏予(教育学部講師) 7,350円</p>	<p>『近代仏教という現象』 戦争・アジア・社会主義 大谷栄一 ベロかん社 2012年3月30日 大谷栄一(社会学部准教授) 5,250円</p>	<p>『韓国で日本のテレビ番組はどう見られていたのか』 人文書院 2012年4月20日 大場西郎(社会学部准教授) 2,520円</p>	<p>『マンション管理評価読本』 価値を上げる管理の常識 学芸出版社 2012年2月15日 編著 谷口浩司(社会学部教授) 2,730円</p>

新刊書籍紹介

『冥顕論』
法蔵館
2012年3月30日
編著 池見澄隆(仏教学部嘱託教授)
7,350円

『線型代数学入門』
共立出版
2012年4月10日
丹後弘司(教育学部教授)
2,625円

『近世上方歌舞伎と堺』
佛敎大学研究叢書14
思文閣出版
2012年2月25日
斉藤利彦(歴史学部准教授)
6,615円

『論理・集合と位相空間入門』
共立出版
2012年4月10日
栗山 憲(教育学部教授)
2,625円

『教職とは?』
エッセイから見える教師・学校
教育出版
2012年3月30日
「教職とは?」編集委員会
代表 砂田信夫(教育学部教授)
2,310円

『線型代数学入門』
共立出版
2012年4月10日
丹後弘司(教育学部教授)
2,625円

『日英のフィールド調査から考える』
学校図書館における特別支援教育のあり方
(佛敎大学研究叢書16)
ミネルヴァ書房
2012年2月20日
松戸宏予(教育学部講師)
7,350円

『近代仏教という現象』
戦争・アジア・社会主義
大谷栄一
ベロかん社
2012年3月30日
大谷栄一(社会学部准教授)
5,250円

『韓国で日本のテレビ番組はどう見られていたのか』
人文書院
2012年4月20日
大場西郎(社会学部准教授)
2,520円

『冥顕論』
法蔵館
2012年3月30日
編著 池見澄隆(仏教学部嘱託教授)
7,350円

『線型代数学入門』
共立出版
2012年4月10日
丹後弘司(教育学部教授)
2,625円

『近世上方歌舞伎と堺』
佛敎大学研究叢書14
思文閣出版
2012年2月25日
斉藤利彦(歴史学部准教授)
6,615円

2012
June

21

20

受験生向けイベント

オープンキャンパス

7月29日(日) 8月4日(土)・5日(日) 10月14日(日)

いずれも10:00~16:00 於：紫野キャンパス、二条キャンパス同時開催

来場いただいた方に記念のプレゼントを用意しています!!

入試種別	出願期間	入学試験日	試験会場
公募制推薦入試	(郵送)10月30日(火)~11月6日(火) (入学部持参)11月7日(水)9:00~17:00	11月20日(火)・21日(水)・22日(木)	本学(紫野キャンパス)・金沢・名古屋・彦根・舞鶴・大阪・神戸・奈良・和歌山・岡山

BUまなび隊(公開講演会)開催予定

*BUまなび隊は通信教育課程地方オープンキャンパスの呼称です。

日程	場所	会場	講演内容	教員
2012年 (平成24年) 9月22日(土) 13:00~15:30	東京	ベルサール八重洲 東京都中央区八重洲1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル 地下鉄「日本橋」駅A7出口直結 JR「東京」駅から徒歩5分	●講演：秋から初冬の京都へ 一古都ならではの隠された火祭りをたずねてー 京都において、秋から初冬に向けて行われる行事には、火をめぐる信仰が随所に見え隠れしている。本講義では、特に京都特有の行事である「御火焚」と「大根焚」に焦点を絞りにこの時期に京都で行われる火祭りの民俗的意味と、その背後にある人々の切なる祈りの心について考えてみたい。 ※入学説明会実施予定	八木 透 (歴史学部教授)

宗教文化ミュージアム ■ 〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26 TEL(075)873-3115


日時	公演内容	会場
7月22日(日)~8月11日(土)	●夏期特別展示 佛教学部開学100周年企画 「佛教学部の100年」(第I期)	会場：第二展示室
7月29日(日) 14:00~	●第16回シアター公演 佛教学部開学100周年企画 「嵯峨野六斎念仏一山打ち披露」 出演/嵯峨野六斎念仏保存会 解説/八木 透(歴史学部教授、本館研究協力者)	会場：宗教文化シアター ※要事前申込
8月19日(日)~10月25日(木)	●夏期特別展示 佛教学部開学100周年企画 「佛教学部の100年」(第II期)	会場：第二展示室
8月26日(日) 14:00~	●シアター上映会 佛教学部開学100周年企画 「早池峰神楽とみちのくの思い」 講演/中島 奈津子(本学研究員) 解説/八木 透(歴史学部教授、本館研究協力者)	会場：宗教文化シアター
10月28日(日)~11月18日(日)	●秋期特別展 佛教学部開学100周年企画 「高麗版大蔵経の諸相」	会場：第一展示室 第二展示室
11月3日(土・祝) 9:30~	●秋期特別展関連国際シンポジウム 佛教学部開学100周年企画 「東アジアと高麗版大蔵経」 講師/方 廣錫(上海師範大学教授)、朴 相國((財)韓国文化遺産研究院院長)、 梶浦 晋(京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学センター助手)、 馬場 久幸(本学非常勤講師) コーディネーター/松永 知海(仏教学部教授、本館研究協力者)	会場：第二展示室 ※要事前申込
11月18日(日) 14:00~	●第17回シアター公演 佛教学部開学100周年企画 「念仏六斎と念仏のこころ」 出演/西方寺六斎念仏保存会、上鳥羽橋上鉦講中 解説/八木 透(歴史学部教授、本館研究協力者)	会場：宗教文化シアター

2012年10月開学100周年に向けてのカウントダウンがすすむ中、B-ism No.4を刊行することができました。「感謝~ありがとう~」をキーコンセプトに重ねてきた様々な取組みもいよいよ大詰めです。京都で100年。「変わらない」を守り、「変わる」を続ける。歴史ある地で歩みを続けていくことの重みを感じつつ、次の100年に向けて今、なすべきこと、できることを問い続け、取り組んでいきたいと思っています。また、4月1日に佛教学部公式Webサイトをリニューアルオープンいたしました。広報誌「B-ism」とともに「佛教学部の今」をお伝えしていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

佛教学部広報課

<p>●学生支援部教職支援課 職員 作野 友美(さくの ともみ)</p> <p>佛教学部の職員として働けることを大変嬉しく思っております。大学の新たな百年、そして後輩たちの学生生活がより充実したものとなるよう、責任感と感謝の心を忘れず、日々努力していきたいと思っています。</p>	<p>●教職支援センター 講師 増田 進司(ますだ しんじ)</p> <p>考古学がやりたくて、大学を中退。再受験して、入学卒業就職しましたが、やがて、教育委員会を退職。佛大の通信教育で小学校の免許を取得。小学校教師となりました。自分の経験を少しでもみなさんのお役に立てられればと願っています。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 准教授 利木 佐起子(きき さきこ)</p> <p>これまで看護に関わってきた経験を活かして、一般大学の中で色々な学部の方々と触れ合いながら看護教育に関われることを嬉しく思います。看護の喜びを伝えられるよう頑張ります。</p>	<p>2012年度 新規採用者紹介</p> <p>NEW FACE</p> <p>●教員 ●職員</p>
<p>●学生支援部学生支援課 職員 田中 辰弥(たなか たつや)</p> <p>佛教学部開学100周年を迎える年に事務職員として働けることを大変嬉しく思っております。佛教学部の新たな100年がより豊かなものとなるよう、精一杯努力していきたいと思っています。</p>	<p>●教育学部特別任用 教授 三上 周治(みかみ しゅうじ)</p> <p>小中高で37年の現場経験があります。そこで培ったことを基に、何が子ども達に必要か?学生の皆さんと共に考えたいと思います。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 講師 阿部 あかね(あべ あかね)</p> <p>地域で働く看護職のキャリア発達などについて上げてゆき、その過程を楽しみにしています。学生さんが卒業、自立した看護職者を目指すよう、多くを学べるよう尽力させていただきます。</p>	<p>●歴史学部歴史文化学科 准教授 斉藤 利彦(さいとう としひこ)</p> <p>日本芸能の研究、とりわけ、上方歌舞伎の研究をしています。近年は、近現代の上方役者や東方(舞台技術者)が伝えてきた伝承(演劇)の研究に取り組んでいます。母校である佛教学部に勤務できることを嬉しく、光栄に存じます。学生と共に、学び育ち、教育と研究に精進する所存です。</p>
<p>●生涯学習部通信学務課 職員 田中 芳美(たなか よしみ)</p> <p>この春より佛教学部で働かせていただくことを大変嬉しく思っております。日々感謝の気持ちと笑顔で忘れず、佛教学部の発展に貢献できるように、精一杯努力していきたいと思っています。</p>	<p>●教育学部特別任用 教授 森田 陽子(もりた ようこ)</p> <p>消費者被害の未然防止のありかたを学際的視点で研究しています。京都に住むのは初めてで、お寺めぐりを楽しみにしています。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 講師 宇多 絵里香(うた えりか)</p> <p>開学100周年、看護学科開設の節目に、佛教学部で新たにスタートできるご縁を大切に、看護学教育に携わるなかで、学生と共に学び、成長していきたいと思っております。</p>	<p>●社会学部公共政策学科 講師 大藪 俊志(おおやぶ としゆき)</p> <p>「改革の時代」における行政を研究しています。かつて公務員として勤務していたこともあり、政府・公共部門改革の潮流のなかで揺れ動く「公務」のあり方を模索しております。</p>
<p>●生涯学習部通信学生課 職員 南祇 理子(なげ みちこ)</p> <p>この度、佛教学部の職員として働けることを感謝と共に大変嬉しく思っております。大学の益々の発展の為、仕事に取り組み、精一杯努力していきたいと思っています。</p>	<p>●社会福祉学部特別任用 教授 射場 美恵子(いば みえこ)</p> <p>小さな子どもたちが、大人が考えているほど赤ちゃんと共に大変嬉しく思っております。大学の益々の発展の為、仕事に取り組み、精一杯努力していきたいと思っています。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 講師 太田 暁子(おた きょうこ)</p> <p>地域で働く看護職のキャリア発達などについて関心があります。京都を訪れたことは今まで教える程しかなかったため、歴史あるこの地で4月から勤務できることを楽しみにしています。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 教授 中川 雅子(なかがわ まさこ)</p> <p>4月から、看護学科で働くことを楽しみにしています。心躍まる看護を学生の皆さんとともに探究していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。</p>
<p>●研究推進部社会連携課 職員 服部 拓也(はつと たくや)</p> <p>開学100周年の節目の年より、佛教学部の職員として働けることを大変嬉しく感じています。佛教学部の更なる発展と充実に貢献できるように努力していきたいと考えております。</p>	<p>●社会福祉学部特別任用 教授 奥野 隆一(おくの りゅういち)</p> <p>国および自治体の保育政策の分析と政策提言に研究関心を持っています。保育政策が転換しようとする時代にあつて、保育者として、実践や働く条件を挙げている、保育政策に関心を持ってほしい。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 講師 高岡 寿江(たかおか ひさえ)</p> <p>告知後のがん患者の看護について研究しています。本学で様々な方と出会い、切磋琢磨する中で「佛教学部ならではの看護学」を一緒に築いていけたらと思っております。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 教授 新田 紀枝(にった のりえ)</p> <p>佛教学部で看護師養成に携われることを嬉しく思っています。本学の場である自宅での患者、家族への看護について、学生が有意義に学べるように努めていきたいと思っています。</p>
<p>●学生支援部進路就職課 職員 丸山 大地(まるやま だいち)</p> <p>4年を過ごしたこの佛教学部に再び帰ってまいりました。組織の一員として、責任と自覚を持つことに緊張しております。学生支援だけでなく、実務との双方を一つひとつこなすため、意欲に吸収していこうと思います。</p>	<p>●保健医療技術学部特別任用 教授 倉舖 桂子(くらしき けいこ)</p> <p>開学100周年を迎える佛教学部で新たな出発をする看護学学生の姿を想像しています。第1期新入生の満々さ、初々しさ、希望・期待に胸が膨らんだ学生とともに新しい職場へ向かいます。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 講師 田野中 恭子(たのなか きょうこ)</p> <p>告知後のがん患者の看護について研究しています。本学で様々な方と出会い、切磋琢磨する中で「佛教学部ならではの看護学」を一緒に築いていけたらと思っております。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 教授 松岡 千代(まつおか ちよ)</p> <p>超高齢社会における家族支援と産業保健について重要なことです。高齢者に寄り添い、真摯なケアができる看護職を育てていきたいです。兵庫育ちの私にとって京都は近くて遠い存在ですが、その奥深さも体感できればと思っています。</p>
<p>●情報システム部情報システム課 職員 山本 陽世(やまもと あきよ)</p> <p>佛教学部とご縁があったことを大変嬉しく思っております。大学の発展や学生のサポートのため、「初心」を忘れずに業務に取り組んでいきたいです。</p>	<p>●施設部施設課 職員 大島 亜純(おおしま あずみ)</p> <p>この度、佛教学部の職員として働けることを大変嬉しく思っております。これから佛教学部のため、「初心」を忘れずに業務に取り組んでいきたいと思っています。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 助教 秋山 直美(あきやま なおみ)</p> <p>高齢者の医療保険・介護保険について研究しています。看護師としての臨床経験を、学生の皆さんの勉学に役立てられればと思っております。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 教授 八木 彌生(やぎ やよい)</p> <p>看護の基礎教育を受けた京都で、新設の看護学科の教育に携わることにご縁を感じています。ひととして、また職業人としての自立性の涵養は、教育の大事な事項ですが、それはまた教員自身の課題でもあると、近頃強く感じています。</p>
<p>●生涯学習部生涯学習課 職員 小西 貴弘(こにし たかひろ)</p> <p>4月から佛教学部の事務職員として働けることを大変嬉しく思っております。開学100周年という節目の年が、より実りあるものとなるよう精一杯努力していきます。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 助教 奥村 歳子(おくむら としこ)</p> <p>小中学校の担任として歩み出した教員生活でしたが、その大半を障害児教育(現特別支援教育)に関わらせていただきました。「良い先生になりたい」という意欲のある方のお手伝いができればと思っています。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 准教授 高橋 亮(たかはし りょう)</p> <p>佛教学部で看護学を教えることができることを嬉しく思っております。これまでの自分の経験や得た知識から、看護の楽しさや人の命の尊さなどを学生の皆さんに伝えていきたいと思っております。</p>	<p>●保健医療技術学部看護学科 准教授 中島 小乃美(なかしま このみ)</p> <p>仏教学の長い伝統ある大学で看護教育に携われることをとてもうれしく思っております。病む人の心に寄り添いつつ、冷静な判断で確かな看護技術を提供できる人材育成に尽力したいと思います。</p>

長楽館
(旧村井吉兵衛京都別邸)
京都市指定有形文化財



B-ism
ロケ場所日記
1

本誌巻頭特集スペシャル対談の舞台となった長楽館。「たばこ王」と称された明治時代の実業家村井吉兵衛が円山公園の一角に建てた別荘。その名称は伊藤博文が宿泊した折りに付けられました。現在もホテル・喫茶・レストランとして使用され、多くの観光客で賑わっています。

京都市東山区祇園円山公園
TEL075-56110001

読者プレゼントの **お知らせ**

佛大オリジナルグッズをプレゼントいたします。
同面添付のアンケートハガキにてご応募ください。

オリジナル
腕輪念珠

5名様

計3名様

(黄・青・緑色)各色1名
※Lサイズのみ

100周年記念パレード
オリジナルTシャツ

